

	活動名	実施回数	参 加 人 数										内 容	成 果 と 課 題		
			乳幼児	小1～3年				小4～6年	中学生	大人	ボランティア				合計	
				0歳未満児	1歳～2歳児	3歳～4歳児	5歳～6歳児				中学生	大学生				大人
(2)	つくってみよう&あそぼう	15		19	125	28	6					1		179	月1、2回2～4日職員が月替わりで企画を考える。季節に合わせた工作や遊びを主に小学生を対象に行う。	自由来館児童より学童児童の方がたくさん参加をしている。来館者に対して自由来館児童の参加割合が少ないため、日常の中での遊びを充実させたり、食べ物関係など参加人数の多い取り組みなどから考えていく。こどもが主体的に企画できる活動も取り入れる。
(2)	コマ回し検定	26		51	215	42	24	10	3	1	6	7		385	毎月2、3回、コマのみの遊びの時間を設け、検定も取り入れた。コマのあそび体験と、練習場所の提供。	コマ回しの検定員としてのボランティアのサポートを、今年度は保育体制に入ってもらうこともり検定時間がオーバーすることもあった。検定でこどもの力がついてきて、お楽しみ会など発表の場で技を披露することができている。年度末には大会も行った。
(2)	一輪車検定	12		2	76	9	5	2						94	毎月1回、一輪車が長く遊べる時間を設け、その中で一輪車検定を行った。	始めは一輪車に乗るところからスタートしているため検定のハードルが低く、低学年女子から高学年の男子まで幅広く取り組みに参加していた。技術が必要なことから、こども同士で教え合う姿もあり、入館式などのイベントで披露することもできた。引き続き月の行事として開催したい。
(2)	けん玉検定	7		1	47	17	12		1		1	2		81	8月までは月1回けん玉のみの遊びの時間を設け、検定も取り入れた。冬休み期間には、けん玉習慣として、手軽な遊びも取り入れた内容をおこなった。	担当の関係で後期は冬休みのみ開催となった。久しぶりの開催のため集中して取り組むより、けん玉を使って気軽に遊べることからはじめた。結果、検定参加にもつながった。
(3)	高学年あそびデー	22				136	29	23	1		2	1		192	月に2日、5時から6時の間、限定した日にちで高学年が児童館で遊ぶことのできる取組。	昨年度と違い曜日を固定せずに開催し、曜日によって参加しづらいこどもも参加できるようになった。遊びの内容はホールや小部屋でこども同士で相談して決められている。一定参加人数があるため、高学年向けの取組などこの時間に開催できることを考えられそうである。
(3)	春のあそび祭り	2			27	8	1	4						40	主に小学1年生を対象に、児童館で行える遊びの中で、普段ホールで行われることが少ない、跳び箱、フラフープ、大縄跳びの遊びを行った。	以降、跳び箱がしたい、など遊びを希望する1年生もいた。上の学年の子が、遊ぶときのコツを教えてあげる姿もあった。
(3)	流しそうめんを楽しもう	1	16	13	4	8	1	2	22					66	児童館庭、1階にて京都の竹屋さんに依頼した竹を使い、親子参加もできる流しそうめんの企画を、乳幼児、小学生以上の部門にわけて行う。	幼児さんを含む子どもがよく食べることができ、季節行事への参加が見られにくい世代が家族参加という形態で集っていた。はじめての試みで、想定よりもうまくいかないこともあった。ニーズのある取り組みではあるため、水を多めに配置する、人手の確保など来年度は改善して行う。
(3)	きりえ	4		2	21	2								25	切り絵展の作品提出に向けての練習。最後には上賀茂神社に作品を展示した。	1年生でも切れる簡単な内容と、きりえに慣れてきた2年生以上の少し難しい内容でわけて、最終的に1つの作品にした。きりえに参加していなくても、背景をこども達と塗り、多くの子が作品作りに関わることができた。
(3)	トースター&プログラミングワークショップ	1		7	1	1	1		8			2		20	外部講師による企画。スクラッチというプログラミングツールを使い、トースターに指示を送ってクッキーを焼く。親子参加。	親子同士が取り組みを通して交流ができた。学童保護者の知り合い関係から、企画を形にすることができた。プログラミングとは何か、気軽な視点からトースターでクッキーを焼くという調理活動に繋げることでこどもたちは興味を持って取り組んでいた。
(3)	お抹茶体験	2			7		2		1					10	資格のある職員が、簡単な茶道の作法や抹茶を点てる取り組みを子ども向けに行う、	児童館内と、団地集会場の和室を借りての開催。昨年度体験して、また今年も参加するこどももいた。今回は乳幼児親子の参加もあり。団地集会場の和室は静かで、抹茶体験に適しており、次年度そこで開催する場合は、参加費をとる形でおこなうと良い。
(3)	児童館で駄菓子屋さん	4	1	14		25		6	1					47	児童館内で駄菓子の販売を行い、飲食ができる場所も提供した。	児童館の中でお菓子を食べたい、という意見がアンケートや日々こどもからでており、取り組みとしてそれを叶えた。普段児童館に来ていない子どもが参加したりする様子がある。児童館まつりでは中学生がスタッフになって運営をした。
(7)	夜間開館お泊り会	1						9				1		10	事前申し込み制で、夜間開館の中学生を対象に児童館で1泊し、話し合いで決めた内容で時間を過ごす。	今年度は内容を広げ、こどもがやりたい意見から集会場を使って遊んだ。昨年度に引き続き参加した児童もあり、夜間開館の特別な活動としてこどもからニーズがある。
(3)	テントであそぼう	1	1	5	50	6	6	2	1			1		72	児童館庭にテントを出し、日陰がある下でヨーヨーやスーパーボールすくい、水鉄砲遊びなどのあそびの提供をする	お盆の期間で来館が少ない中、児童館の庭を活用して、日陰で季節に合ったこどもの遊びができた。
(3)	やきいもデー	1		2		14								16	児童館で焼き芋を用意し、こども達に配る	いつもは児童館庭で焼き芋をしているが、今年は開催しなかった代わりに、クイズに答えたこどもに焼き芋を配布した。予告を見て学校帰りにもらいに来る子どももあり、好評だった。
(3)	ドッジボールフェスティバル	1	1	1	19	6	3		2					32	第一ブロックの児童館の子どもが集い、ドッジボール大会を行う	学童クラブだけでなく、低学年、高学年両方に自由来館の子どもが参加し、練習も含めて団結した活動が行えた。学区の異なる遠方の児童館の子どもと交流ができる場となり、交流試合で順位は決まっていないが、勝も負けも経験してまた来年参加したいという子どもの様子があった。

子ども 育成 機能	(3) 一日児童館体験	2		6		4							10	春休み期間の中で、学童と同じように昼食を食べたり、参加した子どもで作ったおやつを食べた。こどもの考えた遊びを実施した。	会議を行い、こどものやりたいことを行うことができた。遊び時間は少なくなるが、おやつ作りをすることでこどもが参加したいと思えた様子があった。	
	(7) 子どもの権利対話ワークショップ	3						4	17				21	佛教大学教授から依頼を貰い、児童館の中高生以上の子どもを集めて子どもの権利条約に沿って対話を行う取り組みをシンポジウム形式で行った。	継続した開催で中高生が参加している。日常で困っていることを大学生に伝えて、学校についてや公園のルールについて思うことなど思いをきくことができた。子どもの権利条約について学ぶ機会となった。	
	(7) 中高生ワークショップ&おでかけ	1						7				1	8	児童館連盟にて中高生ワークショップに参加しにいくのと同時に、京都駅からスポッチャをしに行くおでかけをした。	スポッチャでは昼食を食べたり、子ども同士で館内ではできない遊びを楽しむことができた。ワークショップでは喜怒哀楽にあわせたこどもの想いを付箋にはって可視化し、ファシリテーターの方が進めてこどもの思いをひろった。解散後、その場で仲良くなった朱雀第三児童館の子ども達と一緒に館に遊びに行く姿があった。	
	(7) 京都市長とのワークショップ	1						2					2	児童館から中高生があつまり、局長、市長と共にこどもの意見について話した。たかつかさからは高校生2名が参加。	取組中は引率者は別室で待機。長い時間のプログラムの中で笑顔で大人や子どもと交流をしていた。市長が児童館ときて子どもと交流することで直接こどもの声に耳を傾けることになった。言いたいことが話せたことどもは満足している様子だった。	
	(4) 詩吟教室	12	0	0	66		24	0		0	1	16	107	毎月2回。地域にお住まいの詩吟の先生に指導していただく。	低学年も高学年も一定の参加人数があり、上手な子はコンクールにも出場した。今年度は花園小学校での地域行事にも出演し、地域の方に活動を知ってもらえた。自由来館時の参加がないため、来年度からは学童事業としての開催をするか検討。	
	(4) 和太鼓クラブ	36	0	44	8	48	56	33		11	1		201	小学生(3年生以上)が毎週土曜日に職員と和太鼓活動をする。	大將軍、花園の地域関係行事でステージ出演することができ、地域のステージ発表を興味を持った児童もいた。普段とは違う子どもの姿を保護者に見てもらえる機会にもなった。普段児童館に遊びに来ない子どもが和太鼓の為に来館する姿があり、卒業した中学生も参加している。	
	(4) 将棋クラブ	38	0	34	138	29	44	1	2			2	19	269	約週1回実施。自由に対局を行う。地域のボランティアさんの参加があり、子ども達と交流しながら教えてもらっている。	将棋クラブに参加している子ども達の意欲向上に繋がり、子ども同士の交流を育む場となった。1年生から参加している姿がある。こどもの参加意欲や担当交代制の中でのプログラムの組み方など考えていく。来年度からは地域の方に月一度講師としてきてもらう。
	(5) 将棋交流会	1		1		1								2	児童館から代表2名が、京都のこども将棋交流大会に参加した。	館内のこども達より強い子どもが多く、中々勝ち進みにくいようだったが、昨年度まで対面での開催がなかった中で、普段の将棋の活動から大会に繋がれたことがよかった。
	(3) コマリンピック	2		4	20	1		2						27	コマ回しから発展した内容で、長回し、まといれピンゴ、で部門を分けて大会をする。	まといれはさいころ方式で入れる場所を運で決めた。動く的を取り入れ、盛り上がっていた。保護者の知り合いからトロフィーの寄付があり、それを優勝トロフィーとして館に飾ってこども達も喜んでいった。
	(3) おたのしみクリスマス会	1	18	22	1	3	2	14	18					78	クリスマスに沿った内容で、ゲームや発表を行い交流する	子どもが司会をして活躍する場があり、遊びの発表やレクリエーションも交えた内容で、土曜日に普段遊びに来ない子どももこの日は多く来館し、盛り上がった。
	(5) 詩吟大会	1		1			1							2	詩吟教室参加児童が参加し、詩吟の発表を行う。	日々の活動から、コンクールへの発表に繋がった。普段は見られない姿の子どもたちの活躍の場となり、保護者に児童館の活動を知ってもらう機会となった。
	(3) 6年生夜間開館体験ツアー	1				6								6	翌月4月から新中学1年生となる小学6年生を対象に、3月に夜間開館を体験できる取り組みを行う。	普段は来られない時間に小学生が参加できる特別感もあり、中学生と小学生が遊びを通して交流できていた。夜間体感という活動について周知し、4月からの参加に繋がった。
	(7) 夜間開館	29		0				219	25	1	12	23	280	毎週土曜日の夜8時までの開館。ゲーム、おしゃべり、音楽、スポーツなど好きな遊びを自由に楽しむ。みんなで一緒に遊ぶ時間も設定。月に1回は食事作りをする。	一定人数が来館し、中高生の居場所作りになっている。夜間の中での話し合いで活動を決めて行くことで子どものやりたいことが実現できている。昨年度に続いてお泊りをした。食事づくりでもフードバンクからのサポートも得られて、安い金額での取組参加を実現できた。	
(10) 出張じどうかん	1	273	58	3	17	2	7	337	52			14	764	地域の島津アリーナ京都にて、館外の児童館活動を実施する。日常児童館に来館していない人に広報を行うほか、地域の保育園、こども園のスタッフも一緒に協力して実施できた。	750名を越える参加を募ることができ、1日乳幼児～中高生まで楽しめる行事である。保育園こども園のサポートもあることで、様々な遊びを展開できた。中高生向けのプログラムは用意しにくい、オセロや昔あそびなども取り入れて、来年度も同時期により良い活動を提供したい。	
合 計	230	310	287	830	415	220	347	439	65	26	87	3053				

* 基本活動は、指針に基づき (2) 遊びの教室活動 (3) 行事活動 (4) クラブ活動 (5) 地域間交流促進活動 (6) 障害のある児童の居場所づくりと活動への参加促進 (7) 思春期児童の活動支援に分類して記入すること。

* 推進活動は、指針に基づき (9) 地域を知る活動 (10) 移動児童館活動に分類して記入すること。 指定活動は指定児童館のみ別途報告すること。

	活動名	実施回数	参加人数													内 容	成 果 と 課 題
			乳幼児	小1～3年		小4～6年		中高生	大人	ボランティア			合計				
				自由参加児童	児童クラブ児童	自由参加児童	児童クラブ児童			中高生	大学生	大人					
(1) 乳幼児とその保護者を対象とする活動																	
基 本 活 動	①ほっとみるく	37	168						10	157	9	8	6	358	0歳の赤ちゃんと、マタニティママ対象の登録制クラブ。ふれあい遊び、絵本の読み聞かせや、戸板あそびなどの発達を促すあそび、季節感を取り入れたもの、思い出に残る工作、リトミック（月1回）や、離乳食クッキング、洛陽総合高との交流（3年生）などを行う。	各サークルごとで年齢や季節に適した内容をおこない、記念に残るものやこどもの発達の成長を感じることでできた。ほっとみるくからピヨピヨに上がった際には、月齢差で遊びについていきにくい場面もあったため、配慮も必要。年度末には合同遠足をした。	
	①ピヨピヨ	38	160							185	13	10		368	歩き回れるようになった1歳半頃からの対象とした登録制クラブ。体操、手遊び、絵本の読み聞かせ、工作で手先を使うこと、家ではできない大胆な遊び、季節感を取り入れたもの、リトミック（月1回）、お散歩、楽器を鳴らす、親子で触れ合える遊びを行う。		
	①リトミック	16	66							65		2	6	139	月2回指導者に来てもらって実施。火曜日はほっとみるく対象。金曜日は、1歳半以上対象に行う。クラブ登録児は、参加費を無料にする。	・リトミックは参加人数も一定あり、児童館内だけでなく衣笠ほっこり広場でも実施することで多くの親子が参加している。	
	②ベビーマッサージ	1	4							4				8	講師の方に来ていただき、親子でベビーマッサージを行う。	・他の取り組みがある時にはあそびの広場を実施しない変更をした。 ・ベビーマッサージは10月に行い、ゆったりと話ながらお母さんと子どもが触れ合える内容で保護者の満足度が高かった。	
	②あそびのひろば	111	183							265	16	8		472	毎週月曜日と水曜日・木曜日の午前中に実施。滑り台、トランポリンなどの遊具を出す。曜日によってボールプールや鉄棒など違う大型遊具も出した。		
	②「グランマ」さんの歌遊び	2	20							19			5	44	地域の「グランマ」という団体が、乳幼児親子向けに紙芝居や歌遊びなどを披露。	季節に合わせた内容で、乳幼児親子からの反応もよかった。申込制にする方が参加人数が確保できて良い。	
	②衣笠ほっこり広場	10	16							19			11	46	衣笠地域のレンタルスペース「やもりハウス」で月1回、実施する遊びの広場。児童館の乳幼児クラブで行った工作やリトミックを行う。	遊ぶ場所が少ないという衣笠地域の乳幼児親子のニーズに答えることができ、乳幼児クラブへの登録にも繋がった。衣笠の民生児童委員の方と一緒に地域の乳幼児親子の様子を見ることができのりで良かった。参加人数を増やすための広報が必要。	
	②まちのきゅうしょくしつ	10	42							36			17	95	給食人サークルの方々が、毎月1回児童館を使って離乳食の作り方などを乳幼児親子に教える。実際にその場で食べ、保護者の悩みや相談も聞く。	乳幼児期の食について、乳幼児親子が経験・相談などができる場になっていて良い。実際に食べることによって固さや味付けなども知ることができた。	
	②ランチタイム	毎日実施	30							26				56	お昼の時間帯に、申告があればいつでも2階で昼食を食べることができるスペースを作る。電子レンジや給湯ボットも使えるようにした。	サークル後に参加する親子が多かった。児童館で遊んだ後にご飯を食べて帰るルーティーンができて助かっている報告もあった。	
	②コンサート&おえかき ホットケーキ	1	26	5	1			1		36				69	児童館で離乳食講座をしている給食人サークルが主体となり、親子参加でホットケーキ作りを行い、同時に学童保護者が所属している音楽サークルによるコンサートをおこなった。	乳幼児親子で気軽にコンサートを楽しめる活動になり、おやつ作りも好評だった。児童館に関わっている団体同士で連携することができた。	
	②乳幼児合同遠足	1	5							5				10	ほっとみるく、ピヨピヨのサークルに参加している乳幼児親子を対象に、公園で遊んだ後、近くの施設でお昼ご飯を食べて過ごした。	年度末の乳幼児親子の思い出になった。毎月使用している衣笠地域にある施設を借りることで、別地域の親子に乳幼児のあそび場を周知することができた。	
	北区コミュニティパーク	1												0	北区の乳幼児親子が植物園に集まって、最初は自己紹介などを行い、その後は自由に植物園の中で過ごした。	たかつかさ児童館の親子参加はなかったが、現地では児童館同士の紹介があり交流ができた。	
	子育て講座3	3	28							20		4	1	53	「歯について」「イヤイヤ期を乗り越えるコツ」「子どもと一緒に楽しく遊ぶコツ」の3つの内容をおこなった。	いずれも参加した親が満足できる内容だった。「歯について」の講座はほっこり広場で行ったが参加者がおらず、広報の工夫が必要。	
	出長あそびの広場2	1	3							3				6	児童館前の団地集会所を使用し、夏休み・春休み期間は館内で行っていない「あそびの広場」を出張して行う。中高生にも手伝いを募集。今年度はキーホルダーづくりをした。	乳幼児活動のない夏休みに、親子が過ごせる場所となった。参加した中高生も、乳幼児との触れ合いを楽しむことができた。	
②親子クッキング	1	7	1						6	0			14	児童館で離乳食講座をしている給食人サークルが主体となり、親子参加で幼児向けのお弁当作りを行う。	こどもが調理に参加しやすい内容で、野菜の型抜きやミンチをほぐすなどを親子でできた。児童館まつりから参加に繋がった親子もいた。		
②洛陽総合高校との交流	3	14							13	16	9		1	53	洛陽総合高校の保育授業と連携し、乳幼児親子と高校生が企画を取り入れながら触れ合う。	授業の体験の中で、おやつづくりや、児童館の新トイレのおむつ替え代を使った人形のおむつ替え体験なども行えた。高校生が工作を用意し中心となった企画では、作り方などで交流し合うことができた。	
②洛星総合高校との交流	1	58	7						225	95				385	洛星中学高等学校の保育授業と連携し、中学生への「赤ちゃん講座」を行う。助産師さんによるお話と児童館からお連れした親子との交流を行い、中学生が命の尊さや子育てを喜び合う機会が生まれた。	昨年度から引き続き参加する親子の姿がある。中学生が用意した折り紙や絵本で乳幼児が喜ぶ姿があった。民生さんにたくさん協力頂いた。	
②乳幼児笑顔サタ便	1	10	6						7	8				31	中高生がサンタやトナカイに扮して、乳幼児さんの家庭にプレゼントを持って訪問する。	初めて夜間開館にきたこどもが興味を持って参加する様子があった。参加した親子から、後日とても喜んでいました、の報告をたくさんもらった。	
合 計	238	840	19	1	0	1	255	965	47	32	47		2207				

底 支 援 活 動	(3) 子ども家庭相談・援助活動	子どもの年齢	件数	受 理 及 び 相 談 経 路		件数	相 談 内 容	件数	つないだ機関等			件数
		乳児 幼児	2	児童館にて直接受理 児童相談所		2			児童相談所 保健所			
		小1～3年（自由来館）	2	保健所 子どもはぐくみ室			成長・発達問題 教育問題 非行・問題行動 その他 虐待	4	子どもはぐくみ室 幼稚園・保育園			1
		小4～6（学童）	1	主任児童委員					小学校			
		小4～6年（自由来館） 中学生 高校生 本人	2	その他 保育所 不登校の親の会		2			中学校 特別支援学校 その他			
		件数 計	7	—		4	—	4	—		0	
	(4) 子育てグループを育成・支援する活動	グループ名	構成人数		活 動 内 容		育成・支援内容		成果と課題			
		地域サークル「グランマ」	4		隔月で季節に合わせた、紙芝居、音楽などの内容を乳幼児親子向けに実施。当日に向けた練習も児童館で実施。		活動場所・備品等の提供。子育てネットワークの一員として、児童館活動に参加してもらえよう働きかけている。「グランマ」については、活動がある月の広報でチラシを作成したり、おたよりに掲載するようにした。母親クラブについては毎月のネットワークニュース、ホームページで活動日・活動内容を広報し、参加を呼びかけている。		スマイルママは新年度の参加が難しい傾向にある。広報でアビールをしたり、声掛けをしている。 グランマさんは月齢が分かった方が活動しやすいため、申し込みを必ず取る。			
		母親クラブ（スマイルママ）	4		元乳幼児サークルの母親を中心に、児童館を借りて、工作や料理などゆったり話をしながら活動をする。							
推 進 活 動	(5) 子育てと健全育成に関する啓発活動	活動名	実施回数		活 動 内 容			成 果 と 課 題				
		乳幼児ニュース発行	12		乳幼児向けのニュースを毎月発行し、来月の事業の広報や乳幼児親子向け活動の様子などを掲載している。			写真が多く掲載されていることに喜びの声があるため、継続していく。				
		ホームページ	毎月/随時		児童館の予定、活動報告、子育て情報など身近なことから行政レベルのことまで掲載			HPを見て児童館に来た、という声が多くあり、情報発信手段として活躍している。公式HPを開設して展開を広げる。HPの継続的な更新が必要。				
		じどうかんもあるよメッセージ活動			8月は1年で1番自殺が多い時期となる。そこで児童健全育成財団の活動に賛同して「じどうかんもあるよ」メッセージを児童館ニュースやインスタグラム、地域役員に訪問協力活動など一斉キャンペーンを実施。			保護者へのカード配り、ポスター掲示、インスタグラム掲載、お便りでの掲載をして広く周知した。				
		児童ケース会議	4		要対協ケースの会議			気になる児童の様子を学校と情報共有をしこれからの支援について話し合う。				
		大将軍まつり	1		和太鼓クラブによる開幕太鼓の披露、児童館の遊びコーナーの開催			和太鼓クラブの活動内容を広め、普段児童館を利用しない児童や乳幼児親子と関わる機会になった。				
		地域長寿会の印刷機使用	12		地域の長寿会の方が印刷機を使用される。			新しい印刷機にかわり、高齢者の方の配布作業が楽になったと聞く。印刷時に地域の様子なども交流できる意味もある。				
		団地つながる防災フェスタ	1		花園団地住民の方が参加。消防の方からAEDの使い方などをレクチャーしてもらう。児童館としては乳幼児・小学生の遊びコーナーの運営。			団地の繋がりの希薄化に対してアプローチができた。				
		まちの給食室（離乳食講座）	10		給食人サークルの方が児童館を使って離乳食の作り方などを乳幼児親子に教える。			毎月一定人数が参加。乳幼児親子が勉強をする良い機会となっている。今年度は親子クッキング活動も開催				
		衣笠ほっこり広場	10		やもりハウスを使い、月1回職員と民生さんが一緒に活動を行う。			衣笠地域の子育て支援の手助けとなった。				
		全国児童館大会参加	1		全国児童館大会に参加し、子ども達の生の声を全国の方に伝える。			小学生の高学年と中学生が職員の研修に参加し、自分たちの思いを直接伝えることができた。				
		子育て講演会	3		「唐について」「イヤイヤ期の乗り越え方」「こどもと楽しく遊ぶコツ」講師：子どもはぐくみ室の保健師・歯科衛生士・管理栄養士 京都市建局自転車政策推進室			今年度は3回実施することができた。専門の方が来てくれてお話が開けたり相談したりすることができて良かった。				

*注 基本活動は、指針に基づき(1)乳幼児とその保護者を対象とする活動 ①乳幼児クラブ活動 ②乳幼児広場活動 (2) 家族参加を促す活動に分類して記入すること。

		活 動 名	実施回数	主 催	活 動 人 数							連携団体	成果と課題			
					乳幼児	小1～3年		小4～6年	中高生	大人	合 計					
						0	2									
地 域 基 本 社 会 参 加 活 動	(1) 地域住民との交流を促進する活動	たかつかさ子育てネットワーク会議	3							17	20	子育てネットワーク	地域の社会福祉協議会、主任児童委員（民生児童委員協議会）、少年補導委員、スマイルママ、小学校PTA、学童クラブ保護者会など地域住民を中心としたネットワークで、意見交換の場になっている。課題として学童クラブ保護者の参加が難しい部分もあるため、代役を立ててもらい声をかける。どの団体も、高齢化、地域の見守りの変化に伴い悩みがあることが多い。どのように連携できるのか考える。			
		北区南西部地域ステーション会議	5							10	6	16	子育て支援施設	3つの関係機関が参加をして南西部の子育て支援について、各施設の状況について話し合う。今年は学習会として、地域役員や保育施設が交流を行う場を設けた。会議時間内で各施設の情報交換が難しい場面もあるため、事前にレジュメに情報を入れ込んで報告すると良い。		
		大將軍子育てサロンへのサポート	6								40	70	大將軍社会福祉協議会	保育園と児童館で内容を交代し、児童館でも行っているリトミックスの講師、児童館と保育園に来ていた保護者によるヨガ、北警察署による交通安全教室の取り組みも行った。外部講師を呼んだり取り組みで参加者がいないこともあり、児童館側でしっかり広報していく。		
		衣笠子育てサロンへのサポート	7								49	75	衣笠民生児童委員	工作やヨガなど行う。参加人数はまばらだが継続してきている親子もあり、サロンから児童館へ、児童館からサロンへなげることができている。		
		花園子育てサロンへのサポート	6	児童館							38	58	花園民生児童委員	民生さんが主体となって行っている。乳幼児親子同士の意見交換の場になっている。児童館に来ていた乳幼児親子が参加していることもある。参加人数が少ないため積極的な広報が必要。		
		チャレンジ体験受け入れ	3							3		3	双ヶ丘中学校 北野中学校	自由来館で児童館に来ている子どもの参加もあった。中学生に将来のことを見据えた仕事の体験をしてもらうことができ、子ども達は来館者として来るだけでは見えない利用者との関りについて学んだ。乳幼児との関りも行った。中学での行事等に職員が参加した。		
		大学実習生受け入れ	30								2	2	京都保育福祉専門学院・京都文教大学・佛教大学（見学）・大阪人間科学大学・洛陽総合高校（見学）	児童館の見学の案内、大学の実習の受け入れを行う。保育の専攻だったが乳幼児だけではなく、小学生や中学生との関りも体験することができた。今年度は保育士実習として、京都文教大学から1名、佛教大学から1名、児童厚生員実習として、大阪人間科学大学より1名の実習生を受け入れた。		
		児童館子どもまつり	1	児童館						1	19	202	414	母親クラススマイルママ給食人サークル 北区子どもはぐみ室 大將軍民衆会 北区子どもはぐみ室 折り紙アランさん	大將軍小学校、島津アリーナで同時開催をした。今年度は飲食物の提供もし、賑わいがあった。学校と島津アリーナで対象年齢が分かれており、乳幼児親子がゆったり過ごせるスペースは確保できたが、どちらかにしか来ない参加者もいたので、来年度は学校のみでの開催を検討。	
		衣類回収（北区リユース事業）	随時	ネットワーク								10	10		古紙や古着、廃油を持ってきて下さる時に地域住民と少しだけ交流することができる場にもなっている。	
		古紙回収	12	ネットワーク								17	22			
		廃油回収	随時	ネットワーク								12	12			
		フードドライブ	4									6	11			
		ニューイヤーコンサート	1	児童館								23	33	100	子育てネットワーク	昨年度依頼をした団体だけでなく、学童クラブの保護者、シルバー人材センターなども依頼し、パリエーションのある内容で参加者に楽しんでもらえた。時間帯や子どもの出演について来年度考えていく。
			合 計	73	—		162	96	2	58	1	55	432	813		
		進 機 動	(2) ボランティア活動の推進	活 動 内 容												成 果 と 課 題
				中高生	大学生	大 人	合 計									
留学生ボランティアの受け入れ					2			2	キューバ、アメリカの留学生ボランティアを受け入れをした。キューバの学生には、現地のおやつを作ってもらい子ども達にふるまってもらう企画をした。							
あそびボランティアの受け入れ						4		4	子ども達と遊ぶボランティアを受け入れる。子どもがあそびボランティアとの関りを求めている部分があり、いい関係ができていく。							
行事・イベント時のボランティア					5	9	14	各検定や行事の引率など様々な行事で参加があった。子どもたちと一緒に楽しく参加している姿があり、子どもたちも喜んでいる。キャンプなどの館外活動では普段見られない子どもの姿を捉えてもらった。								
あそびボランティア受け入れ				3			3	山城高校教諭から依頼があり5時以降の学習のボランティアを受け入れる。勉強だけではなく、子ども達と遊ぶ姿もあり良かった。中高生企画の広報をして、都合がつけば参加している。								
遊び指導ボランティア（将棋・詩吟）						3	3	将棋クラブ、詩吟教室で指導や対局をしてもらう。詩吟の先生には、コンサートで剣舞の疲労をとてももらった。								

能	(3) 地域との連携を 促進する活動	連 携 団 体 等	連 携 内 容	成 果 と 課 題
		小学校、学区社協、少年輔導委員会、女性会、主任児童委員、小学校PTA、(以上大將軍、花園両学区) 民生児童委員会 (大將軍・花園・衣笠) 北野中学校、北野中学校PTA、双が丘中学校、山城高校、花園高校、洛陽総合高校、京都学園高校、母親クラブ、学童クラブ保護者会、花園ミックスジュース班、大將軍地域ステーション保育園(周辺2カ園)、白い鳩保育園	・たかつかさ子育てネットワーク(理念と組織)への働きかけ、情報交換、ニュースの配布、イベント、講演会の実施、ポスター掲示など。 ・保育園2カ園のステーションニュースを館内常設・配布 ・子育てサロンのサポート(大將軍・花園・衣笠) ・ほっこりひろばの共催、母親クラブへの活動支援	・今年度も昨年度に引き続き、地域の小学校、中学校高校に児童館の広報ポスターを配布、掲示してもらい、洛陽総合高校の保育実習を行うなど、地域の学校との関係作りを行った。 ・大將軍、衣笠学区の子育てサロンへのサポートを、みょうりんえん、たかつかさ保育園と一緒に参加した。花園子育てサロンへのサポートは御室児童館と合同で実施している。 ・サロンスタッフや保育園の地域担当者と意見交換を行う場も多く、協同しやすい関係性が構築されていると感じる。 ・衣笠ほっこり広場では、遊ぶ場所が少ないという衣笠地域の乳幼児親子のニーズに答えることができ、乳幼児クラブへの登録にも繋がる。衣笠の民生児童委員の方と一緒に地域の乳幼児親子の様子を見ることができている。
		北・右京区役所子どもはぐくみ室	センターニュースの館内常設、児童館/ネットワークニュースの郵送、北区役所子どもはぐくみ室より郵送(月1回)/北区はぐくみだよりでの乳幼児事業の広報を掲載していただく	子育て講座の場にて、相談や地域の乳幼児親子を見てもらう機会を作ることができた。はぐくみだよりを見て、事業に参加してくださる利用者もいた。
		学校・児童センター・専門機関	発達課題の子どもに対するケース会議・カンファレンス。学校の先生との相談の機会を持つ。はぐくみ室の保健師と要保護児童対応ケースについて情報共有。	要保護児童対策地域協議会ケースについては子どもはぐくみ室にも参加をしてもらい、今後の児童(家庭)への対応方針の確認を行った。カンファレンスでは、北野中学校教諭、スクールソーシャルワーカー、はぐくみ室、大將軍小学校校長などが参加。児童館に来た際の様子などをはぐくみ室の保健師と情報共有することができた。
		保健福祉センター	発達面で気になる乳幼児と保護者に関して、健診前の情報提供。	課題のある子どもについては、情報を共有しながら、地域でのサポートを行っていく。乳幼児クラブ(0歳児)での子育て講座依頼を行っている。
		主任児童委員	ニュースの配布、ポスター掲示、イベント等の参加・協力、	主に大將軍・花園・衣笠ともに子育てサロンでのサポートで意見交換を行っている。またネットワーク会議にも出席してもらい、地域の子育て事情を伝えてもらっている。
		花園地域包括支援センター	花園団地の高齢者の課題を考えるために、プロジェクトを立ち上げ、そこに児童館も参画している。	地域の高齢者関係と連携を行うことが少なく、毎回の情報交換の視点も新たなものとなっている。団地の町内会加入の促進のねらいもあり、団地住民の親子もいることから、サポートしたいと考える。
		たかつかさ保育園・みょうりんえん	あそびのひろば、講演会などを共催。	地域の中の子育てセンターとして、お互いの利点を生かしながら、今後も共同で支援をしていく。たかつかさ保育園とは、子どもについての情報共有も行った。園庭開放など保護者に案内をした。
		地域商店・病院・銀行・寺院・個人宅	ポスター掲示・ニュース設置	児童館のPRポスターの貼り替え作業を行い、児童館のアピール活動に努めた。児童館ニュースの設置箇所の開拓に力をいれていく。

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(たかつかさ) 児 童 館

地 域 福 祉 促 進 機 能	推 進	(4) 児童館を支える地域 組織作り	組織名称		構成団体・個人		会議／取組頻度		議題／取組内容		成果と課題
			たかつかさ子育てネットワーク		20		4		ネットワークの取り組みについて各団体の取り組み・情報交換等		それぞれの学校のPTAも参加し、一回を学習会に当てはめて各3施設より地域との連携を中心とした活動や報告をしてもらった。年間を通して最初に日程をある程度伝えた方が予定を把握してもらいやすい。
			大將軍・衣笠地域子育てステーション会議		9		3		地域子育てステーションの取り組みなどについて・情報交換等		
	活 動	(5) 地域への施設提供	会場提供・備品貸出等		使 用 目 的		提供先（団体・機関等）		成果と課題		
			会場提供・備品などの貸し出し		活動，会議，交流など		地域長寿会、学童クラブ保護者会、母親クラブ、給食人サークル、グラ\nンマ、オレンジファミリー		まちのきゅうしょくしつ、母親クラブへの会場提供をした。オレンジファミリーなどにもコンサート前に貸し出しをすることでニュー\nイヤーコンサートへ参加して下さった。 長寿会の方とも毎月の印刷を通じて交流をし、児童館祭りに作品を\n展示して下さった 山城高校吹奏楽部に和太鼓を提供して、活動を広げた。		
	機 能	(6) 地域調査活動	調査名		調査対象		調査主体		調査方法		成果と課題
			乳幼児親子のニーズを探 る		地域の乳幼児の保護者		たかつかさ児童館		クラブ活動やSNSの活用状 況・乳幼児事業のニーズ を把握するアンケートを 作成する。		今年度の乳幼児事業の評価を知ることができた。ピヨピヨはグーグ ルフォームを使ってアンケート集約をした。児童館ニュース、お便 りを情報源にしている親子が多い。

1

1

0

2

1

(2024) 年度

児 童 館 事 業 年 間 活 動 報 告 書

(たかつかさ) 児 童 館

	広報物の種類	発行頻度	広報対象	広報方法	広報内容	成果と課題
広 報 活 動	児童館ニュース ネットワークニュース	毎月	大將軍・花園全地域、衣笠等持院 地域、小中高校(8校)、関連組 織・施設、HP掲載、法人内児童 館、他法人児童館、青少年活動セ ンター、地域商店、病院	館内での配布、町内回覧、配達、 郵送、店舗等協力設置、HP、 Instagram	児童館の予定、活動報告など 20	回覧を見てきました、という利用者がいる。人を呼び たい行事にはポスターを掲示板に貼ってもらえてい る。地域に配達する日が遅れる皓があるので、引きづ 付き児童館ニュースを発行する段取りを意識する。
	ホームページ	1	子どもから大人まですべての人	0	児童館の予定、活動報告など8	分析をしてトップページの観覧数の多さから情報を トップページに掲載した。更新ができていないとみら れる回数も減ってしまうので、更新をしっかり行い。
	Instagramでの情報提供	1	SNSを利用している大人や子ども		児童館の予定、活動報告など9	視覚的にわかりやすく、児童館の情報を入手する手段 にする人が多い。職員でももっと活動報告ができると 良い。
	掲示板	1	地域住民	児童館前の掲示板	毎月の予定をポスターにして掲示。	13
	タテ看板	都度	地域住民		27	8
	小学校版ポスター	毎月	3小学校	配達	児童館の予定、参加・募集の呼びかけ	中高生向けの行事がある時は、ポスターだけでなく申 込用紙も一緒に配布したことで、新しい参加申し込み が増えた。配布までに時間が駆ることがあるため、 早めのポスター作製をする。
	中高校版ポスター	毎月	6 中学高校	配達	児童館の予定、参加・募集の呼びかけ	
	地域版ポスター	毎月	地域住民	配達	児童館の予定、参加・募集の呼びかけ	
	おおきくなあれ	毎月	乳幼児クラブ・サークル登録者、 2保健センター・2支援センター のスタッフ、HP掲載	館内配布、郵送	クラブ・サークルの予定、子育て情報、活動報告	活動の様子を毎回写真付きで載せることで、様子がわかり次 回からの行事参加の興味に繋がった。
	将棋クラブ登録書	随時	将棋クラブ参加希望者	館内配布	クラブの様子や内容など	継続の子には参加するか確認し、新しく登録する人に のみ登録書を渡すことにした。
	和太鼓クラブ	毎月	クラブ登録者	館内配布	予定、お知らせ、出演欠確認	
	おめでとうピラ(小学校版)	年1回	2小学校全生徒、教職員	学校配達	児童館の紹介、活動内容の紹介、1回目のイベン トのお知らせなど	花園、衣笠、大將軍小、北野中、双ヶ丘で全戸配布を してもらえた。児童館に来館する児童からも、ポス ターやチラシを見た声があった。
	おめでとうピラ(中学校版)	年1回	2中学校全生徒、教職員	学校配達	児童館の紹介、活動内容の紹介、1回目のイベン トのお知らせなど	
	イベントポスター	年3回	地域住民	館内掲示、各町内会長・各種団体 長・利用団体に依頼	大きな行事の前に配布し、掲載を依頼した。	すべての町内会で掲示してもらえないわけではないが、 市の広報版に掲示してもらえるように広がっている。
	イベントチラシ	年6回	地域住民	利用団体、利用者に依頼、配布	上記内容	各行事の簡単な広報チラシである。

キッズステーション	年3回	地域住民	館内設置、利用者配布、町内会役員に配達		利用者への配布を行い、余る場合は地域への配布も行った。
P R ポスター	随時	地域住民	ネットワーク会員を中心に、お店、病院、紹介していただいた箇所、などに設置	児童館の活動内容、対象者などがわかる内容	色あせているものは、張り替えるようにした。
京都新聞（まちかど欄）に掲載	随時	広範囲な地域住民	京都市新聞に掲載を依頼し、一角に事業内容を掲載してもらう。	児童館の予定、参加・募集の呼びかけ	新聞を見て、問い合わせや参加をしてくれた方もいて、新しい参加者の参加に繋がった。
インスタグラム利用ガイドライン	随時	児童館利用者	館内に掲示	Instagramに関する注意マニュアル	2024年3月末で、514名のフォロワーが生まれて、児童館の情報をSNSを活用しながら広報できている。
中高生LINEアカウントの案内	随時	中高生世代の児童	直接児童に手渡し	中高生情報ツールLINEのQRコード説明と注意マニュアル	LINEを見て予定を把握し、来館する様子がある。スマホを持っていない子は保護者に登録してもらう。来館していない児童に声掛けをするツールとして使用できている。
ボランティアチラシ	随時	近隣の大学、立命館大学インターナショナルハウス大將軍	大学生への直接配布、大学パンフレット棚への陳列、イベントでの配布	児童館でのボランティア募集	現在活動をしている学生にも友人に渡してもらうように配布している。また留学生のボランティア募集用に英語バージョンのチラシも作成した。
児童館リーフレット	1	地域住民	新しい利用者などに配布		8
乳幼児むけパンフレット	3	地域住民		2	1 5